



わたしの祭語りepi. 5

齋藤伸一

第44～副実行委員長

おまんた祭りとは…

市民総参加の交流の場である



お祭り期間中はどのような活動をされていますか？



おまんた祭り実行委員会の意思決定機関である 理事会は、主として糸魚川市内の各地区の区長等で構成されています。

糸魚川市は高い山々や深い谷で地理的に分断され 地域間の交流もなく、当時は度重なる災害にも見舞われ消沈していた糸魚川市において、各地区住民が心ひとつに、市民総参加による交流を目指し、おまんた祭りは創設されました。従って今なお各地区代表者のリーダーシップや連携がとても重要になる祭りです。

現糸魚川市連合区長会の会長であり、現大町区長である私は、祭り期間中こうした各理事（区長等）間のパイプ役となり、また、地域住民との意思疎通を密にはかっています。



過去のおまんた祭りの思い出を教えてください。



一番印象に残っていることは、発足の当初第1、2回おまんた祭りに三波春夫さん本人が来場され、おまんた囃子を心の底から熱唱する姿を目の当たりにしたことです。当時はまだ今の市民会館の前庭や糸魚川小学校のグラウンドでおまんた祭りが開催されていました。その会場を隙間なくびっしり埋め尽くすくらいの踊り手が各地区から集まり、三波さんの陽気な唄声に合わせてにぎやかに踊りあかす姿はまさに圧巻の光景でした。

徳島の阿波踊りを見て感じた興奮を、またこの糸魚川で味わえるとは・・・若かりし頃の私はすっかりおまんた囃子の曲調子にハマってしまい、当時、祭りの普及啓発のために各世帯に配布されたLP版レコードを擦り切れるくらい聞き続けました。

糸魚川の各地名所旧跡を唄ったおまんた囃子の詞は、当時の懐かしき記憶と共に、これからも糸魚川の唄として遺していくべき宝と思っています。



未来のおまんた祭りへメッセージをお願いします。



2016年12月22日に発災した糸魚川駅北大火により失われた駅北のまちなみは、だいぶ元の穏やかな姿に戻りつつあります。しかしながら、私の住み暮らす大町区からはこの火災をきっかけに多くの住人達が他所へ移り住むこととなりました。少子高齢化もあいまって、大町区は大市民流しにおいて単体で連を組むことは難しい状況となってしまいました。

そんな中、大火被災3区（大町、緑町、中央）として、『復興に向けて糸魚川を元気に』を合言葉とした合同連を組み参加することが叶いました。

今後はさらに、移り住んでいった方々にも声をかけるなど、1年に一度、このおまんた祭りが懐かしき思い出を語れる場となることを願いつつ、駅北エリアに育ってきた、地域を想う。

若き担い手たちともチカラを合わせ、盛り上げていければと思っています。

祭りのチカラで糸魚川を元気に！！

駅北が再び活況となることを願って・・・

齋藤副実行委員長

素敵な祭語りありがとうございました。

【語りを聞いて…】

市民総参加で開催されてきたおまんた祭り。地域間の架け橋として、そして幾度となく訪れた災害から立ち上がる市民の糧として受け継がれてきました。大火直後の第42回のお祭りでは、焼け爛れた瓦礫の中を「陽気に踊る」市民の姿がありました。どんな時も「祭りの力で前を向いてきた」という歴史を感じる事ができる語りでした…。

おまんた おまんた囃子で 品よく踊れ 躍り明かせばヨ

山も浜辺も あの谷々も

みんな笑顔で 繁昌する…

おまんた囃子より